巻頭言

『論究日本文学』一〇〇号を記念して

『論究日本文学』は、本号で百号となりました。一九五四年六月二七日に発足した本学日本文学会は二〇一四年に六〇周年を迎えますが、同年七月に創刊された本誌も、六〇年目を迎えることになります。人に擬えれば還暦であり、本誌が故清水泰教授の還暦を記念して刊行された経緯と符合して一層感慨深いものがあります。

六〇年の間には、さまざまなことがあったかと思いますが、長引く経済的停滞や大災害の発生によって、現在ほど文学の意義が問い直されることはないのではないでしょうか。しかし、文学・文化の研究は、今こそ意味を持つと思います。日本文学・文化の研究が対象とするのは、日本文学・文化の始原から現在にいたる広大な時代であり、また、時代を超えた人間です。

二〇一一年度より、従来の日本文学専攻は、日本文学と日本文化情報学の二専攻を擁する日本文学研究学域に改編されましたが、その研究対象とするところは変わりません。本誌は、日本文学研究学域の機関誌として、新たな時代の要請に応えつつ、着実な歩みを進めていくと思います。

本号では、長らく日本文学専攻を支えて下さった芦谷先生、伴先生、木村先生、中西先生に一文を寄せていただきました。また、現在の専任教員・卒業生による研究論文を掲載しています。現在の日本文学研究学域の活動の一端として、ご覧いただきたいと思います。

本誌を六〇年の長きにわたって支えて下さった先輩諸兄・会員諸氏の華々しいご活躍に思いを馳せながら、今後ま

すますの発展を願ってやみません。

二〇一四年四月

立命館大学日本文学会
会長　田口道昭